

鵜 戸

奉祝 天皇陛下御即位

国指定名勝

鵜^う
戸^ど



鵜^う
戸^ど
神宮 海宮伝説の地

提供

国名勝「鵜戸」指定記念

戸村 ポスターデザイン
サチ子様(日南市)

Udo Shrine

〒887-0101

宮崎県日南市宮浦3232番地

TEL0987-29-1001 FAX0987-29-1003

鵜戸神宮ホームページ

<http://www.udojingu.com/>

発行者兼編集者
鵜戸神宮社務所

慶祝 天皇陛下御即位

鵜 戸 神 宮

畏くも 天皇陛下には、五月一日めでたく第百二十六代の天皇に踐祚あそばされました。ここに、鵜戸神宮、氏子崇敬者、職員一同、恭しく心から慶祝の誠を捧げ奉ります。

天皇陛下には、五月一日の早旦、皇祖天照大御神より代々お受け継ぎあそばされます「三種の神器」のうち、「草薙剣」、「八坂瓊曲玉」と、天皇のご印であります御璽、国璽（日本国の印）とを先帝陛下よりお受け継ぎになる「剣璽等承継の儀」に臨まれました。また、引き続き「八咫鏡」がお祀りされます、「賢所大前の儀」には掌典長を差し向けられました。

「天孫降臨」のとき、天照大御神さまから天孫邇邇岐尊に授けられた「神器」が新帝陛下にお遷りになったそのとき、新しい御代「令和」が始まったのでありました。

神代の神々のご事績そのままの御代替はりの瞬間をとにも過ごすことは、神国日本の民、ともに生きる青人草として、これに勝る喜びはございません。

第一代、神武天皇さまの御父君、鸕鷀草葺不合尊を主祭神としてお祀りする当神宮としましては、これからもご祭神大前の祭祀を厳修して、常永久なるご皇室の弥栄をお祈り申し上げる覚悟を新たに致す次第でございます。

新しい御代の始まり、神々の舞台としての名勝「鵜戸」に、どうぞお揃ひでご参拝下さいますやうお願い申し上げます。

鵜戸神宮宮司に就任して



宮 司 黒 岩 昭 彦

このたび七月一日を以て第十二代鵜戸神宮宮司を拝命致しました。

顧みれば、昭和六十一年に檀原神宮（奈良県）に奉職平成三年に神社本庁（東京都）に転じました。平成二十一年に父の急逝に伴ひ帰郷して宮崎神宮で櫛宜・権宮司を務め、そして鵜戸神宮に奉職することになりました。

いふまでもなく、鵜戸神宮のご祭神・鸕鷀草葺不合尊は、檀原・宮崎両神宮でお祀りされてゐる初代・神武天皇の御父君にあたります。これも神武さまのとりなすご縁と感謝し、期待に胸膨らませながら着任した次第です。また、私は昭和三十八年の卯歳生まれで、当神宮の神使と伝はる「卯」と同じで、一層親しみを感じたことでした。

さて、御代替はりの本年、秋には大嘗祭が斎行されます。皇祖神を奉斎してゐる神社の宮司として、皇室の尊厳護持はいふに及ばず、神明奉仕を通じて地域の発展にも微力を尽して参る所存です。ご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます、ご挨拶に替へさせて戴きます。

退任のご挨拶



本 部 雅 裕

私 儀

六月三十日を以て、鵜戸神宮宮司を退任するお許しをいただきました。

去る平成二十年三月一日付けにて、神社本庁より宮司の職を拝命以来、十一年四月の間、大過なくその重責を果たし修めましたことは、鵜戸の大神さまのご加護のもと、皆様方のご指導と、職員一同の協力のおかげでございました。ここに改めて衷心より感謝を申し上げます。

なほ、七月よりは、「鵜戸さん」の御子神であらせられ、「神武さま」と宮崎県民に広く慕はれて、古来篤い信仰が寄せられてゐます、宮崎神宮に赴くことになりました。皆さまには、どうぞ宮崎神宮にもご参拝下さいますやうお願い申し上げます。

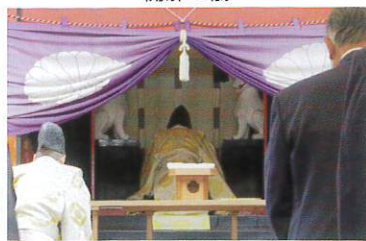
末筆ながら、今後とも鵜戸神宮に篤い崇敬の誠心をお寄せ下さいますやう、また、後任の黒岩宮司にもお力添へをいただきますやうお願い申し上げます、お名残惜しふございますが、退任のご挨拶と致します。



菅属玉串拝礼
参列者



鳥居・石段
開扉の儀



宮司祝詞奏上
浦安の舞



参進
献饌



絵馬
記念撮影



緒方監督玉串拝礼
運玉投げ



二月十四日、崇敬者参列のもと、鵜戸稲荷神社例祭を斎行しました。

当神社は、江戸時代後期の安政五年二月、後藤喜右衛門と津田良吉の両名が、京都の伏見稲荷大社から勧請しました。

現在でも両家の子孫が眷属としてお仕へしてゐます。祭典では五穀豊穡と商売繁盛、大漁満足、航海安全を祈願致しました。

鵜戸稲荷神社例祭

二月十七日、五穀豊穡と国家の安泰を祈る新年祭を斎行しました。

責任役員、氏子・崇敬者を始め多くの参列の中、祭典が奉仕され、宮司祝詞奏上後に「浦安の舞」を奏舞しました。この祭典は、稲作を国の基としてきた日本人にとっては古代より行われてきた大切な祭典です。

祈年祭

二月五日、御本殿にて広島東洋カープの必勝祈願祭を緒方監督をはじめ、會澤選手会長他二名の参列のもと斎行しました。

祭典後には、一つ一つに願ひを込め、運玉投げにも挑戦されました。昨年は三年連続でセントラル・リーグを制覇し、キャンプ地である日南市も大いに盛り上がりました。

カープ必勝祈願祭

例祭



献幣使祭詞奏上
宮司玉串拝礼



修祓
舞楽 納曽利



剣道大会
歌合戦



柳生新陰流剣舞
四半的弓道大会



二月一日、献幣使杉田秀清氏（宮崎神宮宮司）ご参向のもと、責任役員をはじめ県内外より約二〇〇名の参列を賜りました。祭典に先立ち柳生新陰流兵法第十四代宗家、長岡鎮廣氏により剣舞が奉納されました。

また、舞楽「納曽利」が奏舞されると参拝者も立ち止まり、雅楽の音色や舞の優雅な動きに見入っていました。

本年も風田地区・中央町地区より奉納米をお供へいただき、夕方には地区対抗の歌合戦が儀式殿にて賑やかに行われました。

奉祝奉納行事として、二月一日に四半的大会を開催。宮崎県内より多くの方々に参加いただき会場広場は終日賑はっていました。

三日には「第六十六回鵜戸山顕彰剣道大会」が開催され、当日は悪天候により日南市総合体育館での開催となりました。各地より剣士が集ひ、白熱した試合が繰り広げられました。

紀元祭



玉串拝礼
万歳三唱



参列者
祝詞奏上



二月十一日、建国記念の日は、神武天皇が初代天皇として御即位された日にあたります。

国を愛する心を新たに、皇室の弥栄と国家の発展を祈る紀元祭を、またこの日は当宮が初卯の日に斎行してゐる、縁日祭・誕生感謝奉告祭も斎行しました。

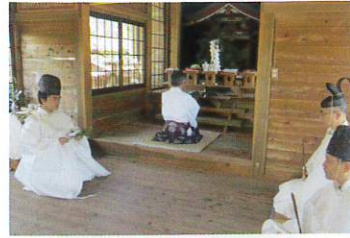
奉祝行事の国歌斉唱、紀元節の歌斉唱、万歳三唱はいつも以上に賑やかなものとなりました。



清祓祭



播種祭



御田植灸



水口奉幣の儀
田起こしの儀



兎の像奉納
燈籠奉納



四月六日、兎の像奉納奉告祭が(株)テクノ 福田敏二氏参列の下、御本殿にて斎行されました。五月十六日には、高橋康雄氏他十一名参列の下、燈籠が奉納されました。皆様は当神宮の第三代宮司・高橋宇太郎大人命の曾孫にあたり、鵜戸の大神様の御恵に感謝され、燈籠を奉納されました。

兎の像・燈籠奉納



第一駐車場横トイレ(平成三年建設)を、この度、国からのインバウンド補助金を受け内装を一新しました。三月二十九日に改修工事竣工奉告祭を斎行しました。参拝に來られた際はご利用ください。

トイレ改修工事

御神田神事

御神田行事は、日本の食文化の基である稲作を後世に伝承するため行はれてゐます。当神宮では平成十二年に二〇年ぶりとなる御神田行事を復活させ、現在も鵜戸地区の御神田にて行つてゐます。

二月十四日、御神田行事の最初の祭典、播種祭をつよし共働センター敷地内で斎行しました。

翌月の十五日には、御田植祭の前に御神田を大麻・御神酒・切麻で祓ひ清める清祓祭を斎行しました。

三月二十日、鵜戸地区の御神田にて氏子を始め地元・鵜戸小中学校児童・JAはまゆうの早乙女・つよし共同センター利用者・関係者約五十名参列のもと御田植祭を斎行しました。

御神田は二アールあり、収穫量は餅米約六十kg・こしひかり約六十kgが見込まれます。

七月下旬に抜穂祭を予定してをり、収穫された新米は伊勢の神宮と当神宮祭典に供へます。

春の縁日大祭

三月三十日、みなさまのご繁栄と産業の発展、国家の平安を祈る「春の縁日大祭」が斎行されました。

奉祝行事として、当神宮職員による「納曽利」、「豊栄の舞」、「鵜戸さん獅子舞」日本民謡協会日南会による「シャンシャン馬道中唄」が御本殿にて奉納されました。



鵜戸さん獅子舞
シャンシャン馬道中唄奉納



参進
豊栄の舞



シャンシャン馬道中唄全国大会



新郎新婦正式参拝
シャンシャン馬道中再現



三月三十一日には、今年で第三十三回となる「シャンシャン馬道中唄」の全国大会決勝戦が儀式殿にて行はれました。

また同日、境内では、明治中期頃まで行はれてゐた「シャンシャン馬道中」が再現されました。今年は四組の新郎新婦が選ばれ、手甲、脚絆にわらぢばき姿の装いで、御本殿にて正式参拝の後、花婿が鈴飾りを着けた馬の手綱を取り、花嫁が乗馬。大勢の参拝者から暖かな拍手が送られました。

御神刀奉納

昨年十二月、日向市在住の刀匠 松葉國正氏より御神刀を奉納いただきました。

氏は平成二十四年に「鵜ノ丸太刀」を復元し、生み出された名刀は「平成の鵜ノ丸太刀」として当神宮の重要な御神宝として護持してゐます。今回、奉納された日本刀について松葉氏は、「この日本刀は鵜戸の美しい海岸に連なる奇岩を彷彿とさせる皆焼(複雑なかたちの焼きが数多くはいつたもの)の会心の作で、長年に亘り受け継がれていくことを祈つてゐます。また、この日本刀がこの国に覆ひくる邪気を切り払ふ一助になればと願つてゐます。」と語りました。



剣舞奉納



奉納奉告祭



奉納された日本刀

岩切さんの祖父は同市南郷町・露島神社の宮司で、父は彌宜（ねぎ）を務めている。幼い頃から神社の祭りに参加して「浦安の舞」などを舞っていた。神社にも関心を持ち、高校3年の時に神職になることを決めた。

高校卒業後は国学院大学文学部に進み、神社での実習や作法などの講義を受け、神職の基を身に付けた。

また、「日向三氏の結婚と出産」などをテーマとして神話も研究。岩切さんは「ウガヤフキアエノミコトを祭っているのが鵜戸神宮。地元でもあるし、非常に魅力を感じた」と話す。

「伝統文化広めたい」



祭りや祈願などで使う太鼓の練習をする岩切さん(右)

大学在学中に神職の資格を取り、今年3月に卒業。現在は同市南郷町の岩切家から鵜戸神宮に通っている。

岩切さんは「学んできたことを生かし、神聖な場所へ奉仕できることがうれしい。一つのお祭りの意味などをしっかり学び、伝統文化を広めていきたい」と意欲を示した。

(落合敬史郎)

岩切さん(日南市南郷町)女性神職

鵜戸神宮で40年ぶり

新職員紹介

宮崎日日新聞社 提供
(平成三十一年四月八日掲載)

日南市宮浦の鵜戸神宮(本部雅裕宮司)に今月、約40年ぶりとなる女性の神職が誕生した。同市南郷町の岩切郁加さん(27)で、現在は太鼓の練習や参拝者への対応などの研修を行っている。岩切さんは「人々の心のよりどころとなるような神社にしたい」と意欲をみなぎらせている。

白衣と白袴(はつこ)を身にまとい、祈願や祭りで演奏する太鼓や笛の練習、お守りを提供する授与所での参拝者への対応など、神職としての研修を日々重ねているという。

本部宮司によると、同神社の女性神職は昭和50年代に1人が退職して以来、現在は県内でも女性神職が増えているが、多忙な宮司をサポートするために妻が就く場合が多いという。本部宮司は「若い人が志を持って神職になってくれることは大変ありがたい」と感謝。「鵜戸神宮はこれからも、神職を育てていく役割を担い、地元の神社から若い人たちの預かる受け皿になていきたい。神職が多いので切望(せつた)くまで」と抱負を語った。

出仕

(いはきり ふみか)

岩切 郁加



平成八年七月七日生
国学院大学
神道文化学科卒

【抱負】

この度、鵜戸神宮の出仕としてご奉仕させていただくこととなりました。

大学四年間で学んだ、祭式作法、神道の心を忘れず、敬神生活の綱領を実践していきたいです。

巫女見習

(ひらばら あやか)

平原 彩華



平成十二年五月八日生
日南高校卒

【抱負】

礼儀作法をしつかりと学び、参拝者が気持ちよく参拝できるように心掛けていきたいです。

一日でも早く仕事を覚え、自分で行動できるやう頑張りたいです。

【日南市吉野友、鵜戸神宮巫女(みこ)平原彩華さん(18)】高校時代に鵜戸神宮を見学した際、周辺の自然の豊かさや宮司の話に感激し、務めさせていたがことになりました。参拝者に気配りができる巫女さんになりたいです。



宮崎日日新聞社 提供
(平成三十一年四月十四日掲載)

別当宮司先賢慰霊祭

五月十六日、鵜戸山別当墓地において、別当宮司先賢慰霊祭を斎行しました。

鵜戸神宮の特殊神事とされる神仏習合の祭典です。当日は、歴代別当宮司遺族をはじめ責任役員・氏子総代が参列されました。

また、宮司祝詞奏上後に願成就寺・王業寺・萬福寺の住職により法要が営まれ、御詠歌が唱へられました。



宮司祝詞奏上
法 要



宮司玉串拝礼
僧侶玉串拝礼



敬神婦人会活動

平成三十年度の鵜戸神宮敬神婦人会(会長長友泰子 会員七十七名)は、第五十六回九州地区敬神婦人大会に八名が出席しました。二日目は太宰府天満宮を参拝しました。

次年度は、宮崎県が九州地区敬神婦人大会当番県となつてゐますので、他県のおもてなしも見学しました。



九州地区敬神婦人大会



植栽作業



三月、境内植栽活動を行いました。会員の手植えにより、社務所前が華やかになりました。五月、当宮儀式殿にて総会を開催しました。会員の皆様には、毎月の緑日祭・誕生感謝奉告祭にも多数ご参列されてゐます。

五月一日の踐祚改元奉告祭では、休憩所で御即位奉祝記念品の配布や記帳のご案内を行っていただきました。

なほ、記念品の紅白餅は、会員による手作りのもので、新聞やテレビにも取り上げられました。



記念品餅作り
記念品配布助勢



総 会
会長挨拶



いさみ太鼓奉納

五月五日、地元小中学校の児童生徒をはじめ、県内外の子ども七十七名が参集し、四十三回目のいさみ太鼓奉納を行いました。

当日、子どもたちはハッピーに鉢巻姿で荒磯に打ちつけ碎ける波の様子を、大小の太鼓と笛・鈴で表現。これに合はせて獅子が舞ひ踊りました。



いさみ太鼓奉納
記念撮影



練習中
いさみ太鼓奉納



委 嘱

責任役員

令和元年六月一日委嘱

藏富 英志	濱上 貢
清水 満雄	倉岡 清美
長友 治	池田 宗利
後藤 邦治	川瀬 静

氏子総代

令和元年五月一日委嘱

鬼束 忠一	石村 唯
田中 孝美	鶴田 三憲
吉田 利光	杉原 実
川瀬 力	長友 泰
村本 寛	清水 愛子
湯浅 享明	関屋 勝

崇敬者総代

令和元年五月一日委嘱

歌津 芳秋	長友 宗利
濱中 武紀	吉村 富士雄
高橋 紘久	落合 孝俊
奥村 幸男	上村 育俊
岩切 文宏	日高 司
相川 啓紀	金田 強
石灘 健次	外山 栄告
門丸 正憲	伊知地 久美
松田 圭司	東元 壽一

編集後記

○社報「第八十八号」をお届けいたします。
○表紙の写真は当神宮が国の名勝に指定された際に、日南市が募集した作品です。他にも何点かございますので、今後の社報にてご紹介いたします。

○今回は当神宮で授与してをります、「鵜戸参歩みくじ」を紹介いたします。鵜戸神宮の境内図などが記載されてゐます。

○参拝の際にお声掛けいただければ、洞内をご案内致しますので、お気軽にお申し出ください。

○元号が「平成」から「令和」へと改元され、新しい時代を迎へました。皆様にとっても良き御代となります事を、鵜戸の宮居よりご祈念申し上げます。
(間瀬田)



鵜戸参歩みくじ